

2020年10月4日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「空しさの中に、神」

聖書：コヘレトの言葉1:1～18

コヘレトの言葉の「空しい」は、「へベル」という語が使われ、37回も繰り返して出てくる。この書はこの世の無意味さ、不条理を淡々と語っているようにも見える。このへベルは、創世記4章のカインの弟アベルの名前と同じである。カインとアベルの物語は、聖書に出てくる最初の殺人。アベルは、神に受け入れられたにもかかわらず、兄の嫉妬によって殺される。彼の人生は何だったのか？どんなに財産を持っていても、神に受け入れられていても、彼の人生は余りにも空しいではないか。アベルの人生イコール「空しい」というところからくる。そういう空しい出来事は、この世の現実社会において多くある。突然重い病気に襲われるとか、事故に遭うとか、友を失うとか、家族を失うとか・・・そういうことで人生が空しいものになってしまうということが、現実として私たちの周りにはある。

「コヘレトの言葉」は、そういうこの世の現実をありのままに記している。ただ、私たちが忘れてはいけないことは、この世の現実の世界に、この世の「空しさの中に、神」は居られるということ。この世の空しさゆえに、神は人となられて、私たちの世界に生きて来られたということ。そこに希望を見出していきたい。あのキリストの誕生の物語には、キリストは「飼い葉おけの中」に寝かされたとあり、この状況を客観的に見ると、これ以上ない貧しさの只中にキリストは誕生したことになる。灯りもない、暗闇の中で、人間が住む場所ではない動物扱いされている、空しい現状の只中にキリストは居られた。さらに、十字架という苦しみ、残酷な惨さの只中にキリストは居られたことを、聖書は表しているが、このことはまさに、この世の「空しさの中に、神」は居られるということを言い表している。ゆえに聖書はこう記す。「主を信じる者は、だれでも失望することがない」(ロマ 10:11)と。

「空しい」「空(くう)」とは、何も無い、「空(から)」「空っぽ」を言うが、天地創造の神は、何もない空(くう)の世界、空っぽの世界、「闇」の世界において、「光あれ」と仰せになるお方である。あなたの空しい世界に、主は光をお与えになるのである。(神谷)